

## 拠点地区の課題

小学3年から中学3年まで通して、児童生徒が苦手意識を持たずに前向きに学び続けられる授業づくり

## 小中連携を通じた具体的な取組の内容

### ◇小中学校の教員が学習内容や指導方法の円滑な接続に努める

- ①7年間のCAN-DOリストを作成し、発達段階に合わせて児童生徒の変容を積極的に評価する
- ②互いの授業を参観し、児童生徒の実態や学び方の違いを知り、リンクする題材や学習を取り入れる
- ③スモールトークなどで既習内容を積極的に取り入れ、口慣れるまで使用する機会を設定する

### ◇言語だけでなく文化に触れる機会を増やす

- ①専科教員の経験をいかし、文化の違いを感じられる学習を組み込む
- ②ALTの出身国や季節に関する掲示を充実させ、給食時の放送等で国際文化の話題を取り上げる

## 成果

- ・互いの授業内容等を知ることにより、小学3年から中学3年までの学習の積み重ねを具体的にイメージすることができた。
- ・研修や授業研究会を通して、短時間で完結する学習ではないことを確認できたため、小学校の担当者が自信をもって授業づくりに取り組めるようになった。
- ・小学校で普段の授業の流れをそろえることで、中学校で抵抗なく学習に取り組めるようになった。

## 成果

- ・校内に文化に触れる掲示を増やしたことで、興味をもって学習に取り組む児童生徒が増えた。
- ・外国語を話すことに抵抗を感じていた児童生徒も「英語を使ってみる」ことに慣れてきている。
- ・小学校からの十分なインプットが中学校での豊かなアウトプットにつながっていることを確認できた。

## 今後の課題・方向性

- ・非常勤講師と二人三脚で行ってきた授業を、学級担任または専科教員が一人で行う授業にどうつないでいくか。
- ・専科教員が行う授業と学級担任が行う授業で、それぞれの良さをどのように保障することができるか。
- ・中学校において、4技能5領域をバランス良く伸ばしていくための手立てや工夫ができるか。

# 山形市 英語教育推進事業における実践

【各校の取組より抜粋】

## 1. 言語や文化に触れる機会の充実

○英語と触れ合うことの少ない現状を踏まえ、校内で多くの児童が通る場所に英語コーナーを作った。身近なもの、季節の話題や行事に関する英単語を掲示した。英語との触れ合いだけでなく、外国とつながることを意識した絵本等の掲示も行った。



○発音にカタカナを付けることで、立ち止まって掲示を見て、発音してみたり、またその話題について友達と話をしたりする様子が見られた。1・2年生が手を伸ばしてクイズに答えている姿もあった。

○非常勤講師がいる日に合わせて、お昼に放送を行った。掲示にクイズが貼られたときには、問題を英語と日本語で読み、答えのヒントを放送することで、クイズに取り組む児童が増えた。また、英語の歌のCDやお話のDVDを流すことで、英語に抵抗のない雰囲気が出てきている。

## 2. モデルの提示

○新しい英語表現を学んだ時や毎時間のスモールトークの際、非常勤講師と担任で会話のモデルを示した。その後、非常勤講師と児童、児童同士の会話へと段階を踏み、児童が自信をもって会話に取り組むことができるよう工夫した。

○非常勤講師やALTの発音やジェスチャーを加えながら表情豊かに話す姿は、児童生徒にとっての憧れであり目標となった。教師にとっても良い刺激となっている。また、2人の会話を見せることで、児童が場面設定や目的をつかみ、自分たちの活動のイメージを持ちやすくなった。

## 3. 児童へのきめ細やかな指導

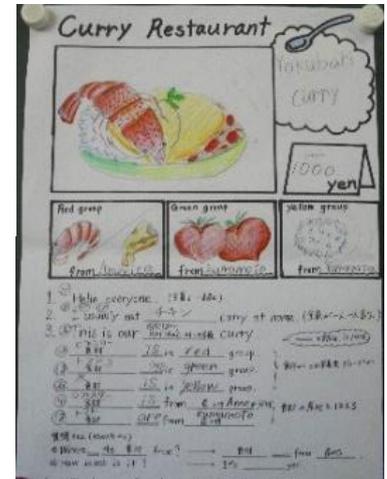
○教師が二人で支援に当たることで、児童一人一人に対して丁寧に関わることができた。わからない単語や表現についての質問に即座に対応したり、個々のがんばりや伸びを認める言葉がけができたことで、児童の学習に対する意欲が高まった。

○授業内では子ども同士の会話の時間を確保し、支援の先生は得意な児童の対応を中心にし、担任は苦手な児童の対応を行うという役割分担をしたことで、たくさんの児童を支援することができた。

#### 4. 教職員への支援

○授業づくりにおいて、非常勤講師からの様々な提案を得られた。ゲームや教科書からの発展的な活動、工夫されたオリジナルプリントなどが担任にとって大きな支援となった。

○ピクチャーディクショナリーに載っていない絵カードや、教具、歌、映像などに関してオリジナル教材の作成を進めることができた。また、クラスルームイングリッシュについて、非常勤講師が「これだけは使ってほしい表現」を精選し、担任が正しい発音を学びながら実践している。定期的にミニ講座を組み込むなどの工夫をしていきたい。



○豊富な指導経験がある非常勤講師から、指導内容の解説や効率的に表現等を身につけるための順序に関する助言を得られた。クラスの実態を考えながら授業を組み立てたり、4技能5領域のバランスを考えながら授業計画を修正したり、実践後の振り返りを踏まえて次の授業の組み立てを相談することができた。

#### 5. 中学校の実践より

○小学校での丁寧な取り組みが、中学校での学習の土台となっていることを実感できる場面が多い。月や曜日を表す言葉など、小学校で繰り返し耳にした言葉を中学校で改めて学習すると、話す・書くなどのアウトプットの場面で定着の速さを感じる。

○「伝えたいこと」がある生徒が多く、積極的に英語を使う姿勢が中学1年生から見られる。中学校ではその意欲を継続させ、更に力をつけられるよう取り組みを続けている。小学校で経験したゲームや活動も、実態に合わせてレベルアップさせながら取り組むことで、自信につながっている。

○まとまった英文を書く学習を取り入れているが、学年が上がるにつれて量・質ともに向上しているのがわかる。小学校で十分に触れてきた単語や英文からスタートすることから、書くことに対する抵抗が少なくなっているものと考えられる。

○GTECでは、特に「書く」の問題が高いポイントを示した。ライティングの活動は、学校全体で意識して取り組んできた学習であり、教師の意図的な働きかけや外国語教育の全体像を捉えた継続的な取り組みが学力向上の鍵になるといえる。

# 九中学区小学校 CAN-DO リスト

		聞く Listening	話す Speaking		読む Reading	書く Writing
			やり取り	発表		
中 学 校	3 年	様々な場面で話されるまとまった英語を聞いて、話し手に聞き返したり、概要や要点を整理したりして、内容や話し手の考え、意向を正確に聞き取ることができる。	聞いたり読んだりしたことについて、感想や意見を述べ合ったり、問答をしたりすることができる。 自分の選んだテーマについて、まとまった内容でスピーチをすることができる。	聞いたり読んだりしたことについて、感想や意見を述べ合ったり、問答をしたりすることができる。 自分の選んだテーマについて、まとまった内容でスピーチをすることができる。	物語や記事、伝記、説明文などを読み、自分の感想や意見を述べることができるよう、内容や大切な部分を整理しながら読み取ることができる。	様々な主題について、情報や自分の考えが読み手に正しく伝わるよう、5文以上で書くことができる。
	2 年	放送や天気予報など、特定のテーマについての英語を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。	身近な話題について、問答をするなどして会話を続けることができる。 様々な話題について、情報や意見を正しく伝えることができる。	身近な話題について、問答をするなどして会話を続けることができる。 様々な話題について、情報や意見を正しく伝えることができる。	レポートやスピーチ、物語や説明文を読み、主な内容や書き手の意向を読み取ることができる。	英文のルールに注意しながら、様々な主題について、意見やその理由を含めて4文以上で書くことができる。
	1 年	初歩的な語彙や表現での会話、自己紹介、放送などを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。	初歩的な語彙や表現を用いて、自分自身のことや体験したことなどについて、発表したり、短い会話をしたりすることができる。	初歩的な語彙や表現を用いて、自分自身のことや体験したことなどについて、発表したり、短い会話をしたりすることができる。	初歩的な語彙や表現で書かれた文章を読み、主な内容を読み取ることができる。	初歩的な語彙や表現を用いて、自分自身のことや体験したことなどについての短い文を、ルールに従って3文以上で書くことができる。
		聞く Listening	話す Speaking		読む Reading	書く Writing
			やり取り	発表		
小 学 校	6 年	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての内容を聞き取ることができる。	日常生活に関する身近な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、互いの思いをたずねたり答えたりすることができる。	日常生活に関する身近な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かり、読むことができる。	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。
	5 年	ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について内容を聞き取ることができる。	英語で挨拶を交わしたり、簡単な語句や基本的な表現を用いてたずねたり、答えたりすることができる。	自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	大文字・小文字が分かり、親しんだ単語を見つけることができる。	大文字・小文字を活字体で書くことができる。 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写すことができる。
	3 ・ 4 年	<b>※到達目標ではなく、以下のような姿を目指して、外国語に触れる体験を積む※</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことや身の回りの物を表す簡単な単語について、ゆっくりはっきりと話されたことを聞き取ろうとする姿</li> <li>・基本的な表現を用いて挨拶を交わしたり、自分のことや身の回りのことや身の回りの物について、お互いに伝え合ったりたずね合ったりする姿</li> <li>・身近で簡単な語句を用いて、自分の好きなものや欲しいものを伝えようとする姿</li> </ul>				